

真澄寺

■真澄寺関西別院 道場棟

宗教法人真如苑の総本山真澄寺（東京都立川市）の関西別院は、伊藤真乗教主の生誕80周年および立教50周年を記念して建設されるもので、完成後は真如苑の関西方面での宗教活動の拠点となる。建設地は大阪のベッドタウン高槻市の郊外の小高い丘の上で、周辺は緑が多く、終日野鳥の声が聞かれる閑静な所である。敷地は後楽園球場の6倍にあたる約157,000㎡で、道場棟など大小8棟、総床面積86,900㎡の建物を建設するものである。

工事は1986年4月から1993年3月までを一期工事、二期工事に分けて施工される。当社は一期工事の内、道場棟の鉄骨工事を川崎重工業株と共同で行うことになった。

この道場棟は、地下1階、地上7階のSRC造で、屋根は鉄骨造、延床面積45,000㎡であるが、内部には約5,000人収容の大道場（大ホール）があるほか、約1,000人収容の講堂を3つ持つ大規模建築物である。建物の広さは80m×90m、高さは44.5m、丸の内ビルディングの1.5倍の大きさである。

この道場棟に使用された鉄骨約6,000tのうち、半分の3,000tを施工したが、最大のハイライトは、大ホールを覆う大屋根の大スパントラスである。スパン約44mで、上下弦材にジャンボH形鋼を使用し、梁高さは7mという大トラスである。輸送上の制約からトラスは解体して単材で輸送し、現場で地組立することになっていたが、部材が厚く主要材の接合は現場溶接であり、工場で仮組立を行い寸法的な確認を行った。地組立はスパンを3つ割りにした状態で行い、仮設支柱2本を利用して建方が行われ、トラスとして完結後除去された。

現場で最も苦労した点は、工場で仮組立したとはいえ、現場地組立時の溶接による変形防止と、建方時に主材、斜材、垂直材等多くの部材を同時に接合すること、溶接時に斜材、垂直材等への姿勢対応があげられる。これらの点をクリアしながら且つ無災害で精度の良い製品をおさめることができ、関係者に好評を博したことは大きな技術の蓄積である。

